

編集後記

第4巻2号をお届けします。表示の年月次より2か月ばかり遅刊したこの段、新編集委員長となった当方の不徳とお詫びします。原稿依頼は前任者から手配りされ、御本人大城氏の2本をはじめ、小松泰信氏による過年ご逝去の丸本郁子大阪女学院大学名誉教授に対する顕正稿、そして書評1本更に事務局報告(前回総会記録)を掲載し、同会合で表彰し逆にその賞金を当会に寄附なされた設立基金提供者・面地豊氏、渉外関係・投稿にも尽力した大城善盛前編集委員長を記録にとどめました。

小さな組織ですが国際交流の大きな夢を抱いています。皆様のご貢献をお願いします。

(会長・編集委員長 志保田務)

今年の1月のことですが、本務校にて同僚の古代の日本史を専門とする先生が引退なされることになり、その先生の業績リストを拝見すると、芸亭に関する論文があることにはじめて気づきました。同僚となって5年経つのにです。

その論文だけでもと拝見すると、私には日本史の論文は難しかったのですが、芸亭は仏教書が中心であると言う意のことが書かれていました。これは仏教書以外も幅広く置いていたという私の認識と異なりました。そして、ある『図書・図書館史』の教科書を見ると、「仏教書以外の図書を収蔵し」と、仏教書は無かったように書かれています。

早速その先生のところへ雑談に行くと、「同僚で私の論文を読んでくれたのは先生が初めてだ」と喜んでくださるとともに、細かく説明してくださいました。私は自信をもって言うことはできませんが、おそらくこの先生のおっしゃるほうが正確なのでしょう。

私が芸亭に幅広い蔵書があったと思っていた原因として、「日本最初の図書館と呼ばれるからには、仏教書以外も幅広く置いていたはずだ」という期待があるでしょう。その教科書の著者も似たような思いがあったはずで、このように、自らのバイアスに気づくのは簡単なことではありません。他分野の人と接するのは自らのバイアスに気づくチャンスです。図書館情報学は全ての学問分野と関係します。

自らのバイアスに気づく他の方法として、海外から学び比較する方法があるでしょう。丸本先生は海外の図書館利用教育を日本に合うように実践・研究なされてきたパイオニアです。丸本先生がなされてきたことは今号の小松先生の研究ノートであらためて確認できます。

この雑誌の作成に協力して下さる若手の方・大学院生を募集しています。お願いしたいのは、新たな企画の提案、校正や目次の作成などの編集作業、 \TeX によるコンピュータ組版などの興味を持たれたところ。この雑誌の作成は、編集委員長も含めて一切無報酬で行われていますので、報酬をお支払いすることはできませんが、査読のプロセスなどの学術誌の編集過程を知っていただくと考えています。岡田(yansenmu@gmail.com)まで気楽に連絡していただければと思います。

(編集次長 岡田大輔)